

# 平成18年公共事業環境配慮システム評価状況等について

## H18 評価状況について

# H18実施配慮率98%

### 1 実施配慮率について

No.	事業種名	評価件数及び実施配慮率(%)						H17 H18 上段 下段	
		計画		設計		施工		件数	配慮率
		件数	配慮率	件数	配慮率	件数	配慮率		
1	道路の整備事業(街路)	0	-	1	100	0	-	1	100
		3	100	3	100	3	95	9	98
2	道路の整備事業(道路改良)	4	92	15	97	4	100	23	97
		6	97	18	95	23	99	47	97
3	道路の整備事業(道路維持)	1	100	2	100	3	100	6	100
		2	100	23	97	2	100	27	97
4	道路の整備事業(農道)	0	-	2	86	2	100	4	93
		0	-	0	-	1	100	1	100
5	道路の整備事業(林道)	0	-	1	100	0	-	1	100
		0	-	0	-	0	-	0	-
6	下水道の整備事業	1	67	4	86	0	-	5	82
		4	100	5	100	8	100	17	100
7	河川の整備事業	2	100	3	100	4	96	9	98
		5	100	12	99	6	98	23	99
8	海岸の整備事業	0	-	0	-	1	100	0	-
		3	100	8	96	0	-	11	97
9	砂防施設の整備事業	0	-	5	100	2	97	7	99
		0	-	2	88	1	100	3	92
10	斜面の整備事業	0	-	2	100	0	-	2	100
		0	-	0	-	2	75	2	75
11	港湾の整備事業	0	-	0	-	2	100	2	100
		0	-	1	100	2	100	3	100
12	建築物、工作物の整備事業	1	100	4	100	10	98	15	99
		0	-	0	-	0	-	0	-
13	廃棄物処理施設の整備事業	0	-	0	-	0	-	0	-
		2	100	11	82	30	97	43	93
14	農業農村の整備事業(農道を除く)	8	93	23	99	15	98	46	98
		1	100	1	100	3	100	5	100
15	漁港、漁村の整備事業	1	88	1	89	5	100	7	97
		0	-	0	-	1	100	1	100
16	治山事業	1	100	1	100	2	100	4	100
		0	-	0	-	0	-	0	-
17	空港の整備事業	0	-	0	-	0	-	0	-
		1	-	0	-	2	100	3	100
18	公園、緑地の整備事業	0	-	1	100	1	100	2	100
		0	-	0	-	0	-	0	-
19	工業団地の整備事業	0	-	0	-	0	-	0	-
		0	-	0	-	1	89	1	89
20	発電所の整備事業	0	-	0	-	0	-	0	-
		0	-	0	-	0	-	0	-
21	工業用水道の整備事業	0	-	0	-	3	92	3	92
		15	96	51	93	54	97	120	95
全事業種トータル		31	97	98	98	85	98	214	98

※ 上記数値は、平成18年1月1日～12月31日に完了した事業のデータを基に作成したものです。

※ システムの対象事業 ◎計画及び設計段階:発注予定価格が500万円以上の事業、◎施工段階:発注予定価格が1億円以上の事業

【平成18年目標配慮率】  
全事業種一律 70%

【参考:実施配慮率の状況】

配慮実施率(%)	H17件数	H18件数
100	89	187
90以上100未満	14	7
80以上90未満	8	16
70以上80未満	3	2
70未満	6	2
計	120	214

【コメント】

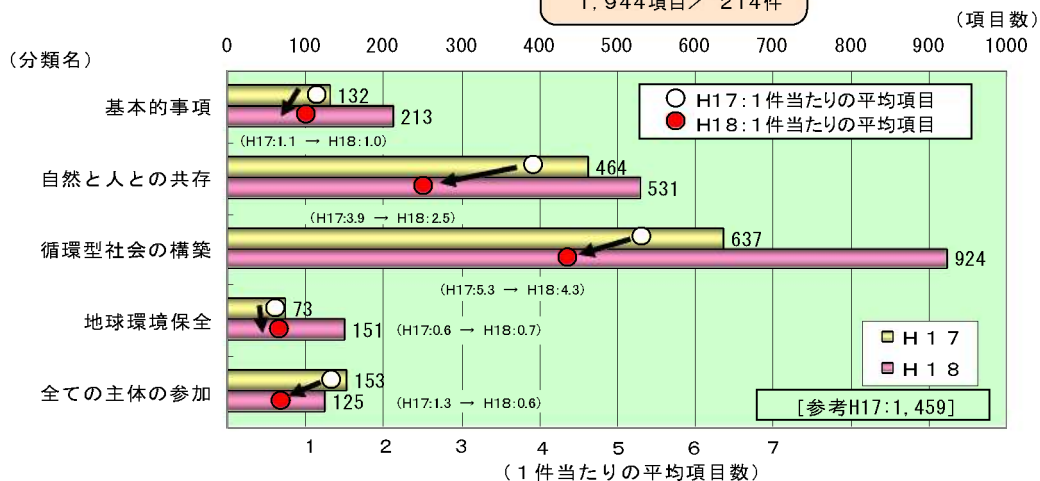
- ◆全体件数は平成17年に比べ1.8倍程度の増、214件！
- ◆H17:32課所 → H18:44課所  
(H18システムの入力時期が全期間、また配慮意識の高まり)
- ◆平成18年の実施配慮率は98%  
(当初の取組目標に対し、高いレベルで実施)
- ◆H18は17の事業種で運用 → 全庁的なシステム取組の浸透

### 2 配慮内容について

## H18配慮内容の平均取組は9.1項目

○個別事項(分類別)の選択項目数

(1件当たりの平均項目数)  
「全体」H18: 9.1項目  
1,944項目 / 214件



# 平成18年公共事業環境配慮システム評価状況等について

## 3 優良事例のPRについて

### 【優良事例発表会の実施】

日時:平成19年1月30日(火) 午後1時から午後3時まで  
 場所:第2庁舎 8階 大会議室  
 参集:県職員、国・市町村・団体の関係機関等 計102名参加  
 内容:① システムの概要  
 ② 特別講演(秋田河川国道事務所)  
 ③ 優良事例の発表(4事例)  
 ④ 副知事による講評



ポイントが分かりやすい説明



熱心に聞き入る職員等

平成18年度  
 ~地球規模で考え  
 行動は足もとから  
 ~



(特別講演)  
 国道7号秋田南バイパス  
 国土交通省 秋田河川国道事務所

専門調査員 佐々木 薫氏

《配慮のポイント》  
 ○ 生き物に、地球環境にやさしい道づくり



河川の整備事業  
 小坂川総合開発事業 砂子沢ダム  
 発表者:砂子沢ダム建設事務所

技師 加藤 広一

《配慮のポイント》  
 ○ 濁水対策、リサイクル

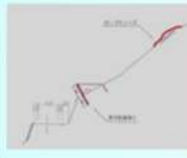
## 環境配慮のPRと業務の参考に



←県では公共事業の環境配慮のため手引き(グリーンブック)を作成し、事業の計画、設計、施工の各段階で活用しています。



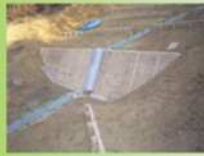
吊り式落石防護柵



道路の整備事業  
 国道道路災害防除事業 国道103号線  
 発表者:鹿角地域振興局 建設部企画道路課

副主幹 小玉 一夫

《配慮のポイント》  
 ○ 構造物の最小化、景観配慮



治山の整備事業  
 復旧治山事業 金ヶ沢地区  
 発表者:由利地域振興局 農林部森づくり推進課

副主幹 柴田 紀晴

《配慮のポイント》  
 ○ 間伐材の利用促進、景観配慮



GREEN BOOK



農業農村の整備事業  
 ため池等整備事業(用排水施設整備)  
 一ノ目湯地区  
 発表者:秋田地域振興局 農林部農村整備課

副主幹 土橋 好彦

《配慮のポイント》  
 ○ 植生調査、仮設計画

## H19 目標配慮率について

【平成19年目標配慮率】  
 全事業種・全段階一律 80%

### 【今後の取組の方向】

- 工事の条件にもよるが、1件当たりの平均の取組項目数は、10以上(H18平均は9.1項目)を目安に目標設定する。
- さらに、質の高い取組となるよう目標を設定するなど、もう一步踏み込んで配慮内容の充実を図る。
- 環境配慮の取組結果については、それぞれの課や班内で情報交換や意見交換を行い、取組の結果を他の工事にフィードバックする。
- 事務局としては来年度から地域振興局毎にきめ細かく研修会を開催し、工事担当部局をサポートする予定である。